



人物像付き双塔形笛吹きボトル(東海大学文明研究所蔵 11571-347)のレプリカ制作実験

つちくれ  
その土塊には 命の鳴動が託された  
ボトルの迷宮に秘められた音色

建築博物教室 第21回 公開ギャラリーセミナー

# 土笛のアーキテクチャ

特別展示『ボトルビルダーズ——古代アンデス、壺中のラビリンス』関連イベント

真世土 マウ(岡山県立大学デザイン学部 准教授/セラミックデザイン)

日時：2020年11月14日(土) 13:30~15:00

会場：東京大学総合研究博物館小石川分館、およびオンラインでの開催

入場：無料(事前申し込み・抽選制。詳細についてはHP内の[開催要領](#)を参照のこと)

# 土笛のアーキテクチャ

## 真世土 マウ



(上) 動物像付き双塔形笛吹き  
ボトル(BIZEN 中南米美術  
館蔵)のオリジナルとレプリ  
カ群。(左より)オリジナル、  
3D プリントレプリカ、インダ  
ストリアルクレイレプリカ、  
土器レプリカ、3D プリント  
レプリカ(半裁)。

(下) 笛吹きボトルに内蔵された  
笛玉や共鳴室の模式的レ  
プリカ群。

南米大陸に花開いた古代アンデス文明では、個性的な表現の土器が数多く生み出された。笛吹きボトルはその好例で、内部に仕込まれた「笛玉」に空気を誘導する精妙な仕かけにより、生き生きとした音を奏でる。そのモチーフは人物や動物など命あるものが圧倒的に多く、陶工たちはそこに生命力を表現したのではないだろうか。このレクチャでは講師が笛玉などのパーツ制作を実演し、古代アンデス美術の豊かな表現を支えている、きわだった製陶技術の高さを解説する。

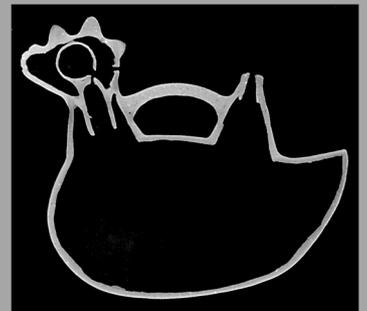


真世土 マウ (ませど まう)

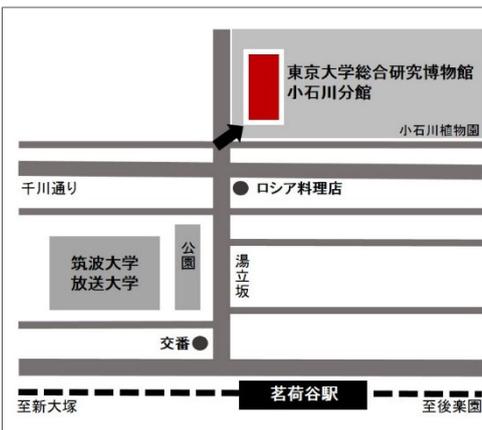
2004年～2006年、モンテレイ工科大学(メキシコ)デザイン学科非常勤講師。  
2014年～現在、岡山県立大学デザイン学部造形デザイン学科准教授。

中米に生まれ、先スペイン期の陶芸の世界を自分なりに探求できたことが、私の研究の基礎になっている。審美的な視点から陶芸を学び、製作過程の分析を通じて、古代の作品に使われた技法を考察するようになった。研究において広く客観的な視野を持つために、分析の方法としてつねに自身でレプリカを制作し、さらに教材として活用している。

2006年 瀬戸市美術館 招聘作家作品展  
2003年 メキシコ国立セラミックコンペティション 陶彫カテゴリー(賞)  
2000年 第8回日本現代陶彫展(入選)



鳥象形橋付き笛吹きボトル(BIZEN 中南米美術館蔵)の内部構造のX線CTによる観察(東京大学総合研究博物館撮影)



### 東京大学総合研究博物館小石川分館

〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1  
Tel. 03-5777-8600(ハローダイヤル)

開館時間: 10:00-16:30 (入館 16:00 まで)

入館料: 無料

休館日: 月・火・水曜日

(いずれも祝日の場合は開館)、年末年始、その他博物館が定める日

アクセス: 地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩 8 分

<http://www.um.utokyo.ac.jp/architectonica/index.html>

建築博物教室とは?

「アーキテクチャ」をテーマにさまざまな分野の研究者が講演を行い、関連した標本を「アーキテクトニカ・コレクション」として展示していくシリーズイベントです。

建築ミュージアム / アーキテクトニカ

**KOISHIKAWA Annex.**

**UMUT**

東京大学総合研究博物館小石川分館